

かつてサンゴの町として栄えた歴史をもつ富江町。今年八月、このまちに「さんごさん」という名の小さな私設図書館がオープンした。図書館といっても、一風変わった。棚に並んでいるのは、いろんな人たちが選んだ「人生のベスト3」の本。そのラインナップは富江町に暮らす主婦や農家の方にはじまり、大学教授や漫画家、アナウンサーや五島市長、建築家に芸能人……と実に幅広い。

本にはその本を選んだ人の名前や職業、そして「ベスト3の理由」が書かれたカードが挟んである。それを読むと、本に対する興味もさることながら、メッセージを書いた人物と向き合っているような不思議な気持ちになる。

館長を務めているのは、大島健太さん。図書館のコンセプトについて大島さんは「図書館を始めるというと、家にあるいろいろな本を送るといふ人もいます。でも、せっかくの新しい図書館ですから『人生のベスト3』というコンセプトを掲げることにしたんです。だから中には同じ本もあります。でも人によって選んだ理由が違って、それが面白いんです」と話す。

神奈川県生まれの大島さんが名前も知らなかった五島の地を初めて踏んだのは、昨年九月。「五島市にゆかりのある東京在住の友人夫妻から、富江町に小さな図書館を作るので館長をしてほしいと頼まれたんです。何カ月も迷いましたが、島暮らしができるなんて一生に一度

# いろいろな人生に出会える。

## ちよつと変わった図書館



島を楽しむ3つの旅  
 新たな島の魅力をめぐるコース  
 小さな図書館編  
 3

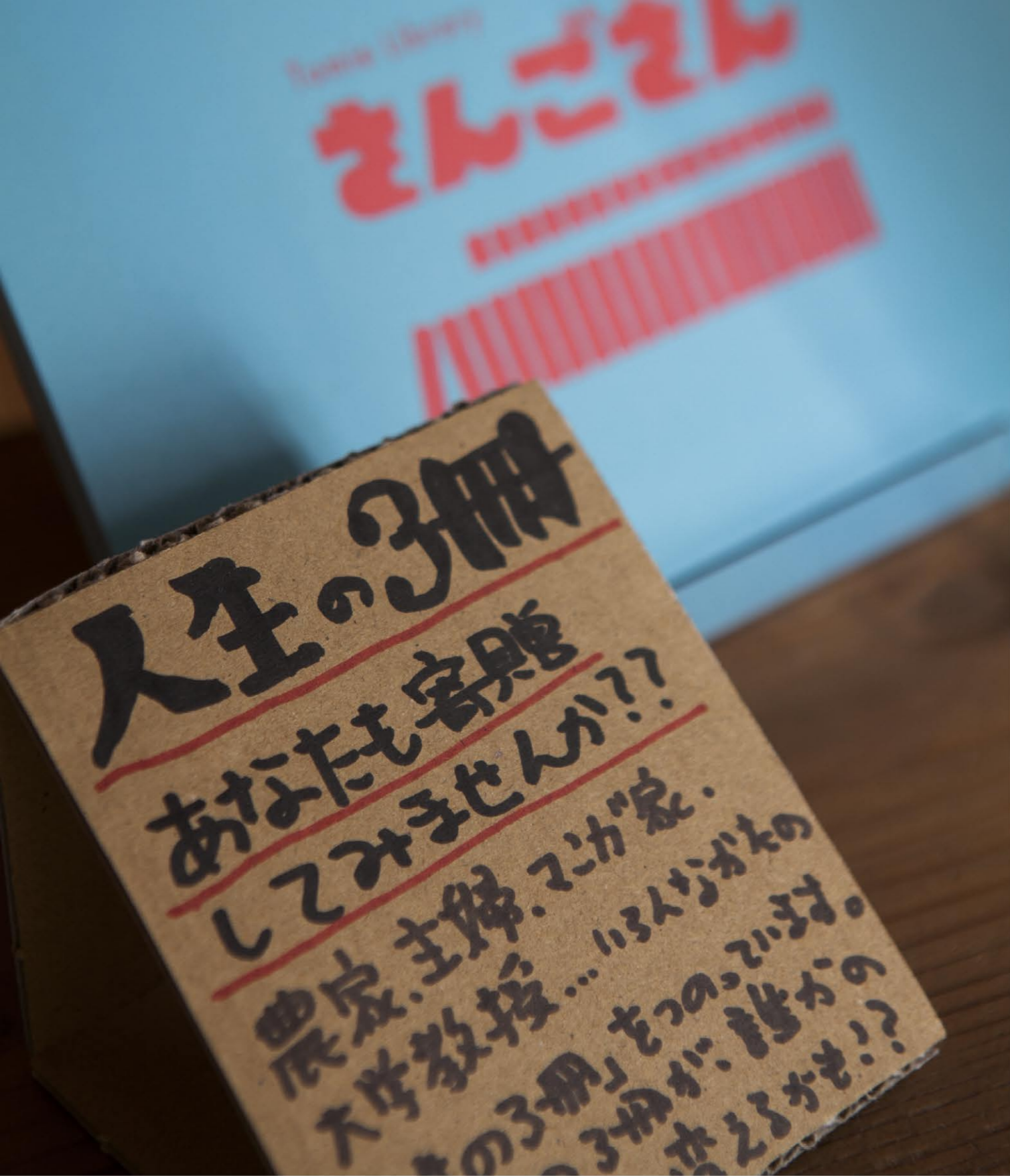
Tomie Library  
**さんごさん**  
 さんごさん  
 五島市富江町富江280-4  
 メール / 353sangosan@gmail.com  
 不定休  
 ※来館の際は事前にメールにて連絡を。

しかないチャンスだと思い、流れに乗ることにしました」。以来、建築家とともに築八十年の古民家をリノベーションし、オープンにこぎつけた。ここでは本を読んだり、テーブルでおしゃべりしたり、それぞれの時間を楽しむことができる。

大島さんは五島の魅力を「やりたいと思ったら、最小限の準備で始めることができること」と話す。その言葉通り、図書館の一角でコーヒースタンドを始めることになった。「地域の人も顔なじみですよ」と話す大島さんのコーヒースタンドには、地元の人たちが入れ代わり立ち代わり訪れることだろう。

「今後は地域のためはもちろんです。五島や東京の企業とも協力しながら、イベントを開催したりして、ビジネスとして展開していきたいですね。あえて具体的なビジョンは立てていません。何が起きるか分からない感じを楽しんでいます」と大島さん。

本棚には、現在約百人分の「人生のベスト3」が並んでいる。棚がいっぱいになる日もそう遠くはないかもしれない。



大島さんの「人生のベスト3」の本はこちら。バラエティーに富んだセレクトが大島さんの人柄を表している。

さんごの色に塗装した外観がトレードマーク。来年以降、宿泊施設として動き出す予定もあるという。

図書館といってもカフェのような空間。ゆったりとした時間が流れる。

